

# 北海道根釧開拓村落の形成と社会的性格

—文学にみる標茶町虹別地区の事例研究—

鷹田 和喜三 (釧路公立大学)

## 1. 研究の課題と方法

本報告は北海道農村の社会的性格に関する筆者の継続研究ノート、(1)「自然村・開拓村・ラーバンコミュニティ」、(2)「集村・散村・ネーバーフッド」の続稿である。(3)の本稿は根釧地方の酪農村の形成過程を農事組合理型開拓村落の事例調査を通して考察し、その社会的性格を整理することを課題とする。前記の(1)、(2)では根釧地方の農村の考察が欠落していたため、実証的研究を企図した。

昭和初期の入植者はどのように移住・開拓し、根釧地方の村落はどのようにして形成されたのだろうか。府県の伝統的農村や開拓年代の古い空知、十勝地方の農村に比較して、どのような社会的性格の相違が見られるか。農村社会学のキーワードである農村、村落、部落、いえ、むら、などの伝統的な定義は根釧地方の農村の実態に合致するのだろうか。これらの設問を大雑把であれ整理し、その社会的性格を把握しようと企図し、上記の研究課題を設定した。本稿のデータ不足と生硬な記述を補完・拡充するため、調査地の虹別原野を舞台とした早川三代治の長編小説「土と人」シリーズを活用して、「文学に見る根釧地方の酪農村の前史」を最近発表した。両稿をペアとして見ていただければ幸いである。

## 2. 調査地の概況

虹別は北海道川上郡標茶町の最北端に位置し、弟子屈町・別海町に隣接する、根釧地方を代表する大規模酪農地帯である。平成6年度では地区内の総世帯数は276戸、酪農家数は120戸、乳牛頭数は約9,900頭(搾乳量は42,000トン)、農耕地面積は約5,500ヘクタール(うち草地面積は4,700h)である。主要調査地の中虹別中央下部落の現住世帯は16戸で、酪農家は12戸(うち牛乳を生産しない農家は2戸)、非農家(教員3戸、会社員1戸)が在住する。酪農家の平均規模は乳牛約100頭(搾乳牛60頭)、所有地55ヘクタール(うち放牧地20h、牧草地30h)である。中虹別小学校、保育所、コミュニティーセンター、中虹別神社が所在し、地域(校区)全体で共同利用・維持されている。中虹別地域会が昭和63年結成され、地域の自治活動をすすめている。

(以下は完成報告書のコピーを配布して報告するため、その内容目次のみを掲げる。)

3. 許可移民と根釧原野開発計画の概況 (①許可移民の性格 ②根釧原野開発五ヶ年計画の概要 ③虹別の主畜農業の概況)

4. 虹別原野への移住(最初の移住者、移民の受入準備、移民団体の到着、移住の動機と背景、原野の隣人、移民世話所の指導)

5. 凶作と根釧原野開発計画(冷害・凶作の予感、移民の退去、過酷な自然条件、長官の原野視察、開発計画への期待、農畜組合の結成)

6. 主畜農業の行方(主畜農業の講習、軍馬景気、五ヶ年計画の反省、10年後の虹別原野、原野と主畜農業、戦間期の虹別原野、おわりに)

7. 伝統的村落との比較考察 (①伝統的用語との相違 ②部落に集団は累積するか ③伝統的村落モデルとの比較)

(時間が許せば根釧地方の農業集落の特質、虹別農村の空間構造的特質についてもふれる)